

第4章 うるま市の歴史文化の特徴

うるま市の歴史文化遺産は、その地域社会の特徴をとりまく場、物、人、事の由来や伝来があり、ひとつのまとまりとなっている。それらを整理すると、うるま市の歴史文化の概要が浮かび上がってくる。それは縦軸を時代区分とし、横軸を「産業・経済」「信仰・文化」「政治・行政」とした整理表に配し、関連する話題をつないで枠組みすることにより、うるま市の歴史文化の特徴が見いだされた（図10）。

① 海の邦としての活躍するまち

うるま市は勝連半島が突出した地理的な特徴もあって、海との関わりは深い。沖縄県最古の歌集といわれる『おもろさうし』には船や航海を歌ったものがあるなど、海上交通の拠点でもあった。それを民俗学の父の柳田国男は『海上の道』で「勝連文化」と評したほどである。近世琉球においてマーラン船は造船業を確立し、近代にかけて沖縄県の北と南を結ぶ交易の拠点となり、県内各地に共同店を生み出し、商人となるものもあらわれる。また、漁に欠かせない網の製造は先史時代にも確認ができ、その漁法も『おもろさうし』などで歌われている。近年は製塩業やモズク養殖業もめざましい活躍を生み出している。

② グスクと村落の形成のまち

先史時代から中世を通じて権勢を誇った按司（政治的リーダー）の活躍は、その後のうるま市の都市化の基礎となった。按司は政治、経済、軍事的な本拠地としてグスクを築き、平時の支配拠点や饗応施設として屋敷と集落を海に近い場所においた。また、住民から阿麻和利を輩出し、首里王府や海外とのつながりを背景に地域を繁栄させていった。その活躍をうかがわせる遺跡や拝所（はいしよ、聖域な場所）、伝説、古文書、民具などが伝わっている。

③ 歌と芸能を生み出すまち

御嶽やグスク、海で神々に祈るウムイ（祝詞）は各地に残され、沖縄県最古の歌集の『おもろさうし』にも収録されている。近世琉球に活躍した平敷屋朝敏は琉歌や和歌をたしなみ、『貧家記』などを残し、その妻も「高離節」を作った。また、琉球王府の役人であった蔡大鼎も『伊計村遊草』の漢詩を残した。近年は作曲家の岩代浩一との親交が深かった歌人の桃原邑子も活躍していた。それらの歌や芸能の豊かな環境もあって、うるま市は沖縄県においても伝統的なエイサーや沖縄民謡の歌手などが根づき、多くのファンを魅了し続けている。

④ 戦後復興発祥のまち

うるま市にはアメリカ軍政府の統治下において戦後沖縄の自治として沖縄民政府が誕生した。行政以外には当時流行の衣料産業やファッション、大衆芸能や音楽、ラジオ等をリードしてきた。とくに民衆の飲食に強い影響を与え、ステーキやアイスクリームを始めとするアメリカの食文化、伝統ある沖縄そばや郷土料理、タコライス、いなり、チキン、てびちそばなど新しい食文化をも生み出し続け、今では観光客たちを魅了している。文化庁「100年フード」では、未来の100年フード部門～目指せ、100年～で「勝連のもずくてんぷら」（沖縄県・うるま市）が令和4年度に認定を受け、伝統の100年フード部門～江戸時代か

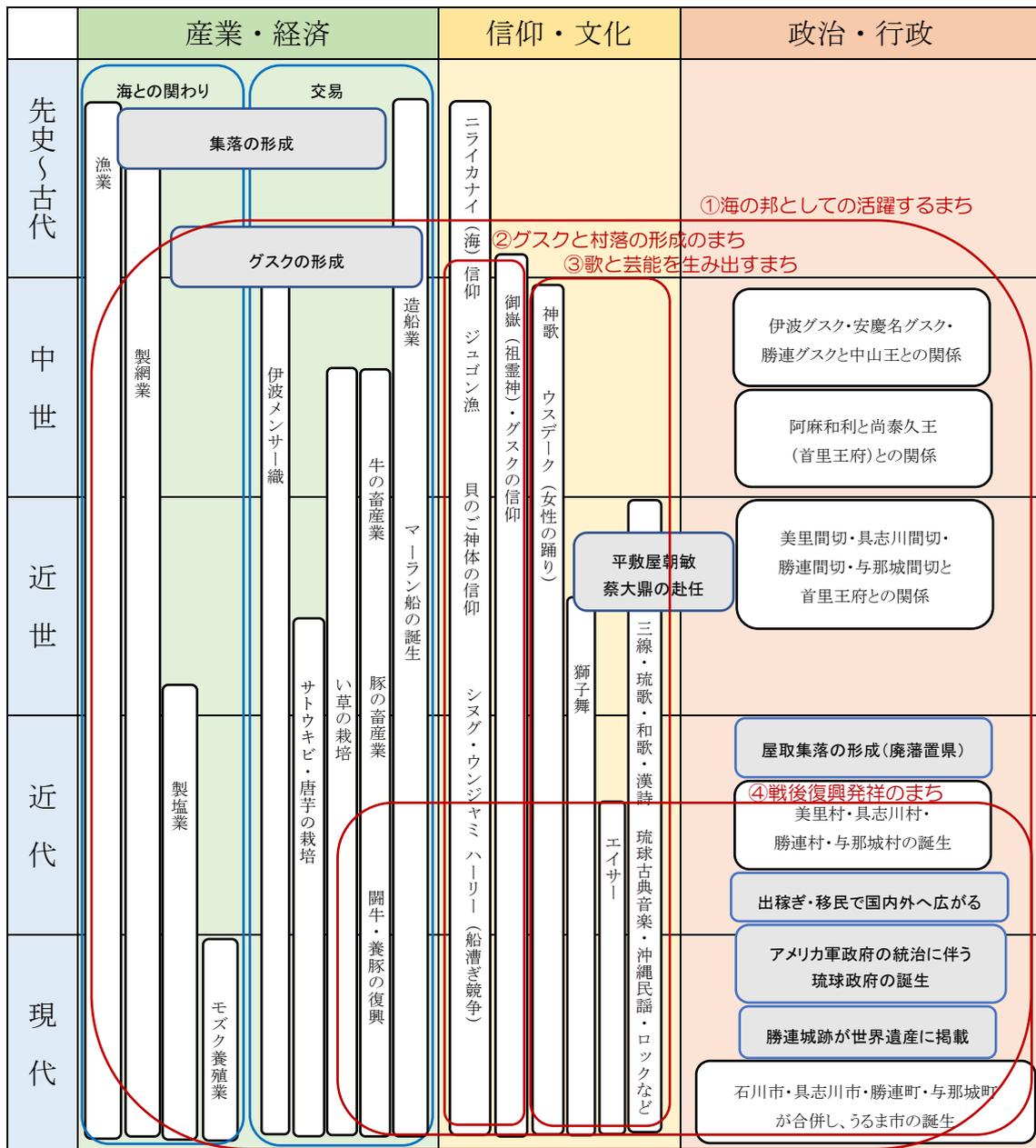


図 10 うるま市の歴史文化の整理表

ら続く郷土の料理〜で「ティビチ料理」（沖縄県・うるま市未来プロジェクトグループ）が令和5年度に認定された。また、戦後沖縄の養豚業にはハワイ移民の市出身者の支援で経済が復興した。南米や南洋などの移民は海外の果物やダンスなどを持ち帰り、国際性豊かな都市として賑わった。

整理表の図10をみると、うるま市の歴史文化は、相互に関連しあっていることがわかる。とくに、うるま市の歴史文化の礎となったのは、グスクを形成し、村落と祭祀の関係を強化した按司や住民たちの活躍である。按司となるリーダーやその有志の家々がグスク周辺に拠点を置き、御嶽や石垣、治水、港などを整備し、村落の基礎が出来ていったことが、その後の漁業や交易、畜産業、田地や畑地の開拓などの農漁村のまちとしての繁栄に影響を与えたといえる。とくに先史時代から続く航海技術やその交易が脈々と受け継がれていき、近代の海上交通の要所となった要因である。その華やかな風景は島しょ地域の村々などに残されている。それらの地域には経済力を持った人々による芸能文化が花開いた。

うるま市の歴史文化の特徴のなかで、他の地域とは異なるものとして、海と暮らしに関する歴史文化があげられる。沖縄をイメージする代名詞の「海」、その海を展望できる世界遺産「勝連城跡」、「海中道路」、「島」という訴求力の強い特徴を持ち、これまで様々な形で注目され、うるま市では観光やスポーツ、文化、芸術といった取り組みが推進されてきた。こうした歴史文化の特徴は、市内外の人々に認知されている。しかしながら、モズク養殖業や蘭草栽培、サトウキビ栽培を中心とした農水産業、闘牛のまち、沖縄の音楽・芸能の歴史を一望できる民俗芸能や大衆芸能、戦後沖縄の食文化等があつて、これらが相まって歴史文化を形成していることは忘れてはあまり知られていない。



世界遺産の勝連城跡で開催したウステーク交流会